

令和元年度 校内研究計画

- 1 研究主題 自ら考え 互いに学び合い 考えを深める ときわっ子の育成
～ 生活科・総合的な学習における郷土学習を通して ～

2 主題設定の理由

これからの社会は、グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化、複雑化する諸課題への対応が必要となっており、変化が激しく先行きが不透明な社会に移行しつつある。このような予測できない社会の変化に対応するためには、その変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが求められている。このような社会の変化に伴い、21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等を重視する必要がある。また、教科等を超えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力として、言語能力とともに情報活用能力があげられており、これらは、様々な言語活動や協働的な学習を通じて効果的に育まれることに留意する必要がある。さらに、地域社会と一体となった子どもの育成を重視する必要がある、地域社会の様々な機関等との連携強化が不可欠となっている。

本校では、昨年度、文部科学省委託「次世代の教育情報化推進事業」でのICT活用推進校（全国8校）の指定を受け、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、ICTを効果的に活用した指導方法の開発に取り組んだ。本研究では、数多くの授業実践と研修を重ねることで、児童の考えを表現や思考の場に効率的かつ効果的に導き出すためには、本校のICTの活用方法は有効に働くことが明らかになった。また、平成29年度よりコミュニティー・スクールの指定を受け、野菜作り（1・2年生）、芋・大豆づくり（3年生）、田んぼの学校（5年生）、高齢者訪問（6年生）など、地域の人たちの支援をもとに体験活動の充実を図り、地域社会と一体となった児童の育成に取り組んでいる。しかし、教師（指導者）側の授業におけるICTの効果的な活用方法については一定の整理がされているが、児童に身に付けさせたい情報活用能力が明確になっているとは言えない。また、地域の人たちの支援をもとに体験活動の充実を図っているが、学校全体として児童に身に付けたい力が明確になっていないため、体験活動で支援を受ける地域の人たちやその対象との積極的な関わりが行われているとは言えないのが本校教育の課題としての現状である。

体験活動の場は、学校だけでなく、児童が実際に生活をする家庭や地域の中にたくさんある。また、その体験は、様々な人・もの・こととの関わりを有し、必然的な交流（コミュニケーション）の場が創り出される。このような体験活動や交流活動の中で、子ども達は、地域に関わる課題を積極的に見出し、その課題解決を通して、地域に誇りと愛着を持ち、そこから自分たちにできることを見つけ、働きかけようとする態度を育んでいきたいと考える。

以上のことから、生活科及び総合的な学習の時間を中心に郷土学習を設定し、地域

との関わりの中で、子ども達が主体的に問題解決的な学習を行うことにより、自ら考え、互いに学び合い、考える児童の育成をめざし、本主題を設定した。

3 研究の目標

身の回りの生活や地域を素材とし、体験活動及び交流活動を通して身に付けたい力（情報活用能力を含む）を育む郷土学習の在り方を探る。

※「体験活動」とは、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの活動を通して対象に働きかける活動のことである。

※「交流活動」とは、体験活動の楽しさやそこで気づいたことなどを言葉、絵、動作、劇などによって表現し、感想などを交流し合う活動のことである。また、課題解決のために情報を集めたり、調べて分かったことや考えたことを友達や地域の人たちに分かりやすく表現し、感想などを交流し合う活動のことである。

※「郷土学習」とは、橘町の人・もの・ことに「ふれる」「知る」「働きかける」学習のことである。

4 研究の仮説

生活科や総合的な学習の時間における橘町の人・もの・ことに「ふれる」「知る」「働きかける」学習（郷土学習）の中で、①意図的・計画的に体験や交流活動を仕組み、②ICTを効果的に使って情報の集積や共有させ、自分の考えを表現させる場を仕組み、めざす児童の育成ができるだろう。

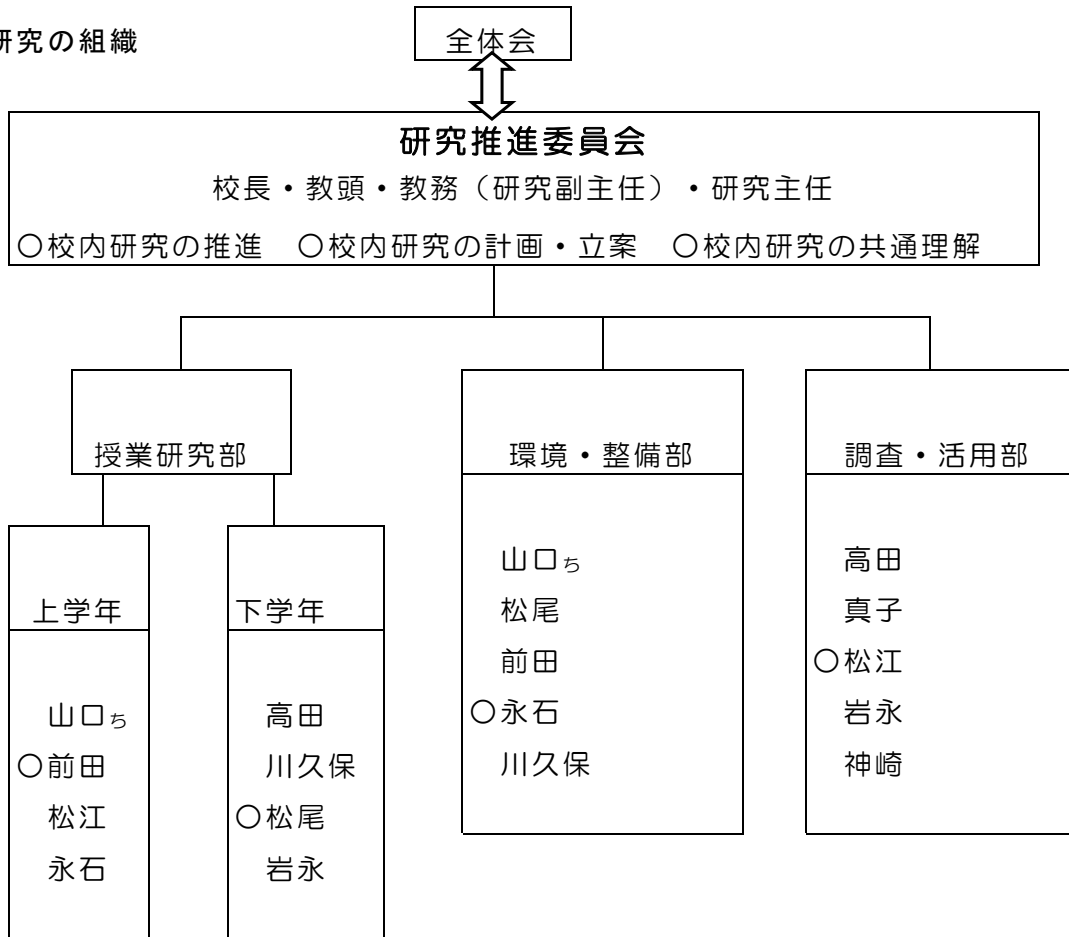
5 研究の内容

- ① 地域の人・もの・ことを素材とした生活科・総合的な学習の単元開発
 - ア 地域に「ふれる」「知る」「働きかける」学習過程の工夫
 - イ 地域の人・もの・ことを生かした体験及び交流活動の場の設定の工夫
 - ウ 学びの主体性を高めていくための児童の自己評価及び他者評価の工夫
- ② 郷土学習を核とした生活科・総合的な学習の年間指導計画の作成
 - ア 郷土学習における低・中・高学年別の目標設定
 - イ 他教科との内容的関連の工夫
- ③ 情報活用能力を高めるための情報教育の充実
 - ア 各学年での情報活用能力の育成を意識した系統表の作成
 - イ 情報活用能力の育成を意識した授業の工夫

6 研究の方法

- ① 児童の実態把握（地域への関心・意欲、表現力、情報活用力など）
- ② 授業研究会による実践研究
- ③ 先進校視察及び講師招聘による理論研究

7 研究の組織



8 研究の計画

| 月 | 研究の内容 | 月 | 研究の内容 |
|---|--|----|---------------------------------------|
| 4 | 全体研究会…全体計画立案 研究主題・研究内容・研究組織等 断続研修会開始 (ICTスキルアップ) | 10 | グループ研 指導案検討会及び授業研究会③ 断続研 |
| 5 | 全体研究会, 専門部会 ICT利活用 橘スタイル確認 断続研 指導案検討会及び授業研究会① | 11 | 全体研究会④ ⑤ グループ研 ⑥ 専門部会 |
| 6 | 専門部会 断続研 | 12 | グループ研, 専門部会 全体会 |
| 7 | 断続研 指導案検討会及び授業研究会② | 1 | 専門部会…研究のまとめ作成 |
| 8 | 全体研究会 専門部会 断続研 講師による講話 | 2 | 研究のまとめ 研究冊子作成 |
| | | 3 | 全体研究会…一年間の反省 今年度の取り組みについて 次年度構想 |
| 9 | グループ研・専門部会 断続研 | | |

